

# 平成25・26年度 立川市教育委員会研究協力校

研究主題

## 「自ら学び続ける 態度・姿勢の育成」

～自主学習ができる生徒の育成をめざして～



### 主題設定の理由

立川第七中学校の生徒は、明るく元気である。運動会や合唱コンクールなどの学校行事にも一生懸命取り組み、また、気持ちよく挨拶ができる生徒も多い。そのため、地域の方々や来校される方々からも度々お褒めの言葉をいただく。授業規律も確立しており、落ち着いた学習環境が形成されている。一方、生徒の家庭学習（自主学習）の習慣は定着しつつあるが、生徒も保護者も家庭学習の不足を感じている。（学校評価より）

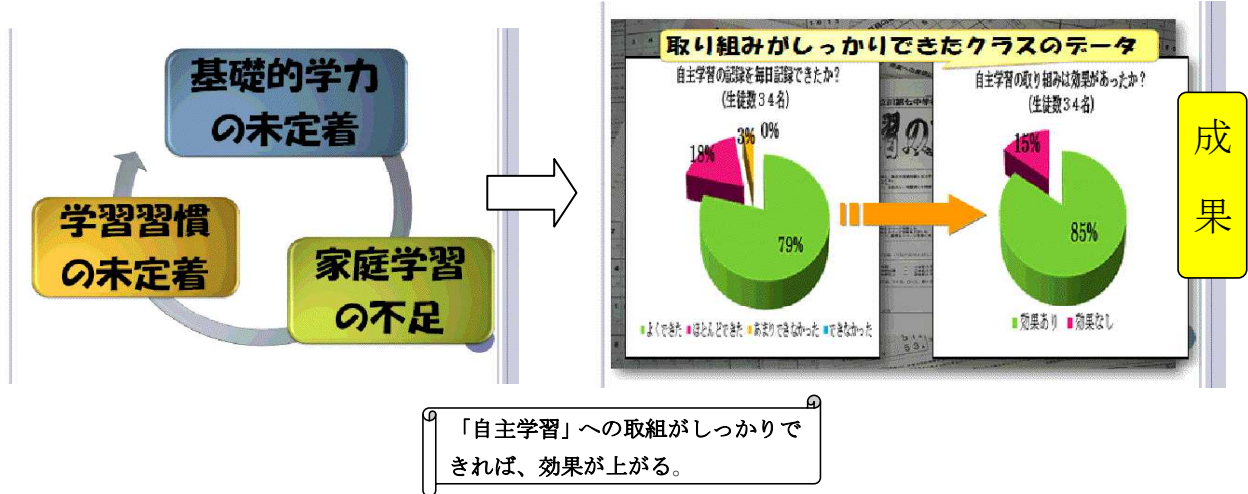
そこで、先行研究（平成23・24年度）の「自主学習」の取組を受けて、さらに効果的な自主学習の方法を探求し、「主体的に学習に取り組む態度に重点を置くことで、基礎・基本が定着し、学力向上が望める」と考え、研究主題を『「自ら学び続ける態度・姿勢の育成」～自主学習ができる生徒の育成をめざして～』とした。

### 立川市立立川第七中学校

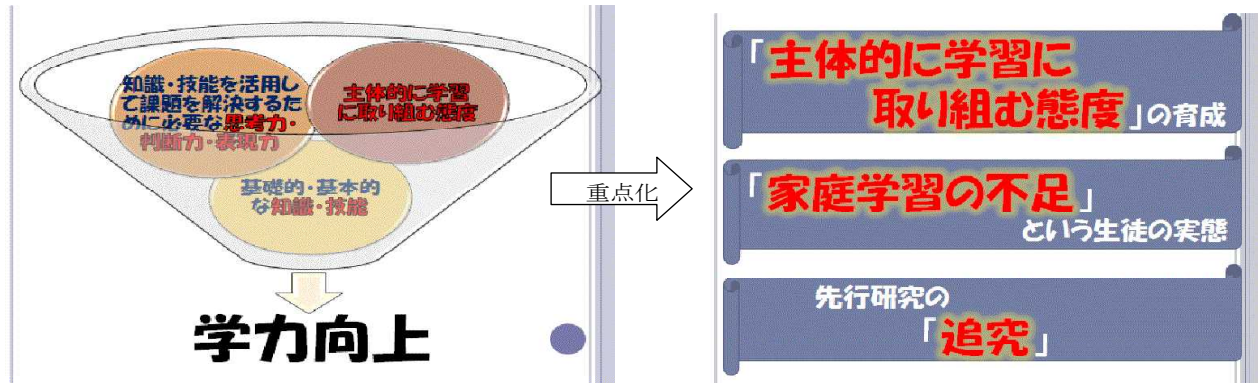
〒190-0034 東京都立川市西砂町6-28-3

TEL 042-531-0511 fax 042-531-6103 Email :dai7@m-net.ne.jp

# 1 研究の経緯について - 先行研究 23, 24 年度

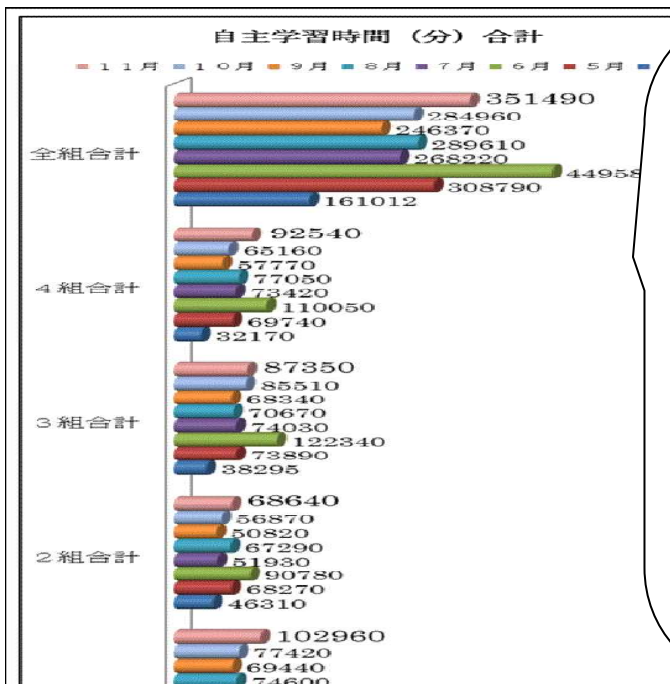


## 2 研究主題の設定



学校教育法第30条-学力の3要素 本研究は、学力の3要素の一つである「主体的に学習に取り組む態度」の育成に力点を置くものと位置付けています。

## 3 研究実践



### 1 「自主学習の記録」の実施

「自主学習の記録」とは、生徒が行った自主的な学習の時間と学習活動としての音読の回数を毎日記録して、一年間記録していく活動です。朝の学活前に係の生徒が配布し、生徒たちは前日の結果を記録します。記入が終わったら、係の生徒が回収します。左のグラフは1年の自主学習時間の合計です。

学年	1	2	3
学期	1	2	3
調査	1	2	3
通知	1	2	3

## 自主学習の記録

自主学習とは、「学校の授業以外で、自分の意志でおこなった学習」の、各自の自己申告によるものです。

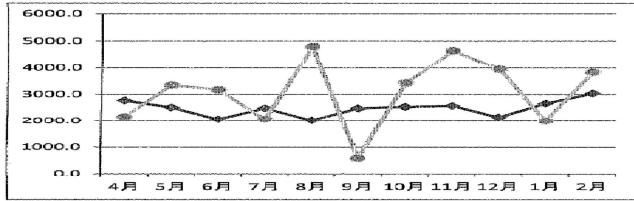
【七中推奨「自主学習時間」】

1年生は1日160分、2年生は1日120分、3年生は1日180分

自主学習時間

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
学年平均(分)	2770.9	2507.6	2057.4	2478.8	2017.9	2476.5	2533.8	2574.0
個人(分)	2150	3350	3170	2060	4790	580	3430	4640

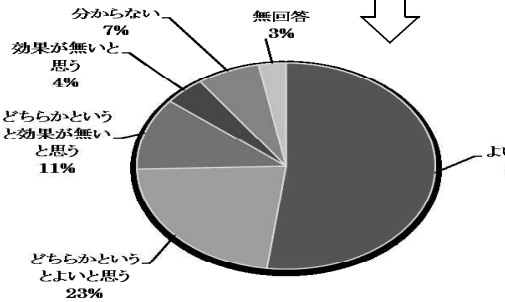
### 自主学習時間



## 2 通知表の改訂

本年度から通知表に定期調査の結果に加え、一ヶ月ごとの、本人の申告した自主学習の時間の結果と学年の平均学習時間を印刷することにしました。さらに、本人の学習時間の推移と学年平均の推移をグラフにもして示しました。

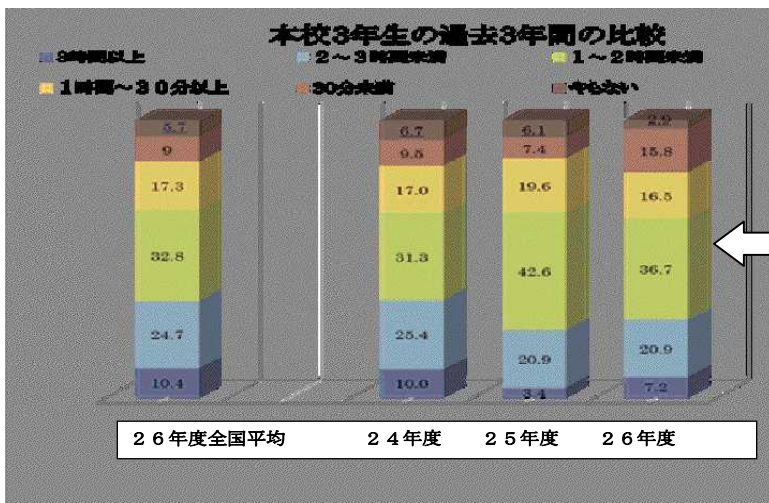
質問項目 本校で行っている「自主学習の記録」を毎日、記入することについてどう思われますか。



## 3 保護者アンケートの実施

保護者への自主学習の取組への周知と、家庭での自主学習の実態把握のため、自宅等での生徒の学習場所など、具体的なご意見も保護者からいただきました。

## 4 生徒の変容



2.9%  
本校生徒

質問項目 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

\* 24~26年度「全国学力学習状況調査-

生徒質問紙-学習時間等」より本校で作成

26年度の本校の生徒は学校以外での学習をやるなものは全国平均の5.2%に対して、**2.9%**であり、**97%以上**の生徒が自主学習をしていた。



### 成果① 家庭学習定着の向上

本校は、家庭学習というものについて生徒の取組が大きな課題でした。本校では、学校以外で学習をやらない生徒の割合が平成22年度の全国学力学習状況調査では8.7%でした。平成26年度の状況調査では、やらない生徒の割合が、全国平均5.7%に対して、本校3年生の本年度は2.9%と着実に減っており、自主学習に取り組んでいる生徒が増えました。本年度は97%以上の3年生が自主学習に取り組むようになりました。

### 成果② 集計結果の視覚効果

自主学習の時間をグラフや数値にすることにより、生徒にも自分がどれだけの時間学習してきたのかが目分かり、玄関や階段など様々なところでこのグラフを掲示し、生徒への呼びかけにも役立ちました。通知表に自主学習の合計時間をのせて、保護者への発信にも役立ちました。グラフの活用により、生徒の実態が浮かび上がって、自主学習の学習時間の合計の変化が今回の研究についての分析に大いに役立っています。

### 成果③ 自主学習の取組について保護者の7割が肯定

本校の自主学習の記録について「良いと思う」と「どちらかと言えば良いと思う」の2つを合わせて75%の保護者が肯定的にとらえています。さらに昨年度より自主学習をしていると「思う」と「どちらかというと思う」を合わせると65%保護者から肯定的な感想をいただきました。

### 成果④ 自主学習定着のための指導法実践

授業の中でどのように自主学習を定着していけるかの工夫の実践もしました。具体的には社会科の「投稿チャレンジ」や「ニュースキャスターに挑戦」などです。2年間を通して、研究授業を行い検証しました。また、夏休みの研修会では講師に明星大学特任准教授の小林幹夫先生をお迎えして、模擬授業を行いました。明星大学の小林先生からは先行事例がなかなか少ない中での実践に一定の評価をいただきました。社会科や英語科のような重要単語や重要語句が多い教科は、自主学習を年間計画の中で視野に入れ、授業と関連付けていくことの重要性が見えてきました。

### 課題① 自主学習の質的向上

全国学力学習状況調査で、3時間以上学習している割合が全国に比べても低く、平成26年度の全国平均10.4%に対して、7.2%です。また自主学習の記録からは、学習時間は分かっても、学習内容や自主学習の教科の偏りやバランスについては見て取れません。また、効率良く、自主学習に取り組んでいるのか、さらに教科によっては復習のほうが効果的であるのか、予習のほうが効果的であるのかなど、調査や聞き取りが不十分です。効果的な学習方法とそうした学習方法の検証、短時間でも集中して行う自主学習の指導など、質的向上が次の大きな課題であると思われます。

### 課題② 自主学習への取組に対する指導方法の改善

実技教科では自主学習に対する指導工夫が難しいものがあったり、同じ教科内でも担当者によって工夫の違いが見られたりした。教科の特性や学年の特徴等を意図的に結び付ける指導法の工夫や、発達段階にあった3年間を見通した学年や学校全体での計画的な取組が必要になってきます。

### 課題③ 小中連携の強化

家庭での学習の習慣化は小学校段階で身に付けさせることは様々な先行研究でも言われています。このため、自主学習定着のための小中連携は重要になってきます。しかしこの部分の検証と実践については、今後の課題としてこれから検証していく必要がある。

### 課題④ 家庭との連携強化

自主学習の基盤が家庭との連携にあるにもかかわらず、23%の保護者が自主学習の記録についての取組を「知らなかった」という実態がアンケートで浮かび上がりました。改めて家庭との連携の強化を痛感しました。自主学習については家庭での学習時間が多く占め、保護者との連携はさらに継続していきたいと思えます。